

美味いお話し

令和2年 3月

本の中に出てくる食べ物や食材が、
3/5 (木) の給食に登場します。

3/5 の献立

マーボー丼、
にら玉スープ、中華サラダ
牛乳

紹介した本は
学校図書館で展示中。



まーぼーどうふ
マーボー丼 → 麻婆豆腐



『卒業するわたしたち』

加藤 千恵/著 小学館文庫

今回紹介する本は、3月に読むのにぴったりの本、「卒業」をテーマに書かれた短編集です。

「麻婆豆腐」が出てくるのは、「流れる川」というタイトルの短編です。主人公は卒業を間近に控えた中学3年生の百花。部活の1年後輩の男子が好きだけど、周りには秘密にしています。

社会科の時間。「越すに越されぬ大井川」という江戸時代難所だった川の話聞きながら、自分も1学年の差をどうしても越えられないなと思っています。そのあとの給食の時間。卒業が近づき、今まで班で食べていた給食を好きなメンバーで食べてもよいことになっていて、仲の良い女子たちで食べる給食は、卒業式に好きな人に告白する友だちの話で盛り上がります。その日のメニューが麻婆豆腐です。後輩との間の距離を「大井川」に置き換えた百花の気持ちはどうなのでしょう。

このお話のほかにも、独立した話が全部で13本収められています。学校の卒業だけでなく、様々な場所や様々な年齢の人たちの別れを「卒業」として描き、「卒業」を新しい出発として前向きに背中を押してくれます。一つ一つは短くて、余韻の残る作品です。気に入った作品が見つかるかもしれません。

著者は小説のほかに短歌集も出している歌人で、それぞれの短編の冒頭には一首ずつ短歌があります。

“あたしだけ卒業していく 心から祝われたならきっと悲しい”

「流れる川」冒頭の短歌です。ぜひ小説を読んでから読み直してみてください。

『牛乳』は好きですか？

『しあわせの牛乳』 佐藤 慧/著 安田 菜津紀/写真 ポプラ

1年の締めくくりに、給食の献立に最も多く登場しているものを取り上げたいと思います。毎回欠かさず出ているものといったら、そう、牛乳です。食材としても使われていますからダントツの1位ですね。この本に登場するのは岩手県にある「なかほら牧場」。1年を通して牛が山で放牧されている日本でもめずらしい牧場です。“牛は牧場で放牧されているのが普通でしょ、山なのがそんなにめずらしいの？”と思うかもしれません。お店に行けばいつも色とりどりの牛乳パックが売られています。たくさんの牛乳がどうやって作られているか、考えたことはありますか？牛乳は自然の恵みのはず。身近な食品のことです、関心をもって手に取っててくださいね。なかほら牧場のかわいい牛の写真も見逃せません。

